

バードウォッチャーかバーダーか？

言葉は生きていて時代と共に変化します。私共の何気なく使っている「バードウォッチャー」という言葉も例外ではありません。

その昔、中西悟堂先生が「野鳥」「探鳥」という言葉を創られ、「野鳥の会」とか「探鳥会」という言葉が次第に一般化してきました。最近ではもっぱら英語のバードウォッチング (Bird-watching) やバードウォッチャー (Bird-watcher) がごく普通に使われます。今や世をあげてレジャーブーム、その中で「バードウォッチング」は健全で、なにかハイクラスな印象をもってより多くの人に迎えられています。

一方最近、特にアメリカではバーディング (Birding) と、それを行う人の意のバーダー (Birder) が盛んに使われており、日本でも野鳥専門誌の「バーダー」という月刊誌がでています。

さて、バーダー (Birder) とバードウォッチャー (Bird-watcher) との違いはなんだろう？まだ国内ではやや先鋭的なバーダーに対し、バードウォッチャーはすでに安定し定着した語感をあたえますが、諸々の用例から私なりに得た感触では“Birder”の方がより専門的に「鳥」を追求しているように思われます。

辞書を引くと Bird の項に「鳥を観察する」という動詞が載っているものはまだごく限られているようです。Fishing が「魚を捕る」ことであり Birding は「鳥を捕る」、Birder はしたがって「鳥を捕る者」というのが現状です。それが「鳥を観察する」と「鳥を観察する人」と変化していくのを期待しています。

そこで、あなたは Bird-watcher ですか？それとも Birder ですか？

大宮のハクトウワシ